

報告書 イギリス夏期短期研修

理学部生命科学科 一年

僕は、イギリスの生活に直に触れることによって、様々なことを学ぶことができたと思っています。例えば、現地の生活様式、食事、通貨、道路規則、常識などなど、挙げればキリがありませんが、今回はその中で特に日本と差異が著しいと感じた部分や、逆に日本とあまり差異が見受けられなかった部分を中心に話を進めていきたいと思います。

まず始めに、授業形式についてお伝えします。

イギリスのロンドン大学での授業では、日本とは違って1コマ1時間で進めていきます。ですので、一日最大で6限もの授業があつたりします。また、当然ですが言語は英語なので、ありきたりな表現で申し訳ありませんが、本場の英語に長く触れていられます。イギリスの英語は我々が普段習うアメリカ英語と少し違って、独特なアクセントをしていますから、慣れるまでは少し聞き取ることが難しいかもしれません。僕も最初の授業の3時間くらいは何を言っているのかさっぱり分かりませんでした。ですが、だんだんと聞き取れるようになってくるので、リスニング力の伸びを実感できます。ここで気をつけておいて頂きたいことは、リスニング力以外は意識して生活しないとあまり向上が見られないということです。現地で生活しているのですから、引きこもっていない限りはリスニングは当然上達します。ですが、意識して使うようにしなければ、リーディングはおろか、スピーキングまで上達しないかもしれません。積極的に海外の方と話すように心がけなければ、そもそも英語で話すということをしてないので、スピーキングが上達するはずはありません。ですから、リーディング、リスニングなどの日本でもできることは日本で鍛えることをお勧めします。少々脱線してしまいましたが、授業ではあまり難しいことは扱いません。内容自体は日本のものとあまり変わりはありませんが、課題の量が比較的多いので、しっかり勉強に時間を費やす必要があります。また、日本とは違って、イギリスでは質問をする事が当たり前です。逆に質問をしなければ授業を真剣に受けていないとみなされます。質問を全然しない日本の授業に慣れきってしまっていると、留学に行った時にすごく戸惑いますので、授業の中で疑問を探す癖をつけておくとう便利だと思います。

次に、現地の様子や生活についてお話しします。

イギリスは富裕層と貧困層の差が大きいいためか、街中でちょくちょく浮浪者を見かけます。目が合うとにっこり笑ってくれますが、普通に危険ですのであまり目を合わせない方がいいです。金を要求されることもあります。イギリスの人々にとっては赤信号はあつてないようなものなのかなと思いました。車が来ていなければ赤信号でも何食わぬ顔をして渡りますし、車が来てい

でも悠々と渡る人がいます。これを真似するべきかどうかははっきりと判断することはできませんが、いつまでたっても青にならない信号とかありますので現地の人々の挙動を見て、その都度渡るタイミングを見極めた方が危険が少ないです。

現地の食べ物が口に合うかどうかは個人の好みによるため、美味しい不味いを議論することは時間の無駄だと思いますが、イギリスでは極端な味付けがされている食べ物が多い、ということは自信を持って言えます。例えば、薄い味付けだったら、何も調味されていないのではないかと思うくらい味が薄いですし、濃い味付けだったら天元突破の勢いで味が濃いことが多いです。寮に調理器具は揃っているので、普段は店で食材を買って自炊すると良いでしょう。日本であまり自炊しなくても結構なんとかなります。

書きたいことは書ききったので、ここらで筆を置かせて頂こうと思いますが、一つだけ言っておきたいことがあります。それは、海外に何週間か留学に行ったところで英語力は上達しないということです。始めの方でもお話ししましたが、結局はここに戻ってきます。一年以上の長期留学であれば英語力の上達も見込めるでしょうが、短期の留学では英語力を伸ばす十分な時間はありません。あくまで現地の生活を体験できるだけと考えた方が良いでしょう。ですので、今後短期留学を考えている方は、英語力云々ではなく、現地そのものに興味があるか、または魅力を感じているかという観点から留学先をお決めになると、有意義な留学生活が送れるのではないかと思います。

ではこれにて、報告を終わります。